平成 28 年度　一般入試

小論文（50 分）

受験番号	

注　意　事　項

※　合図があるまで，この冊子に触れてはいけません。

(1)　問題冊子について

小論文の問題冊子は，3 ページあります。問題は 2 問（問 1，問 2）あります。

(2)　試験終了後について

試験終了の合図があったら鉛筆を置き，問題用紙と解答用紙を監督者の指示どおりに置いて退出してください。

次の問に答えなさい。

ポピュリズム（populism）とは、そもそも民衆の利益の増進を目標とする政治思想で、既存の体制を批判し、知性に重きを置く立場を否定する考え方といわれています。今日では、それが転じて「大衆迎合主義」と訳され、あまりいい意味では使われていないようです。それらの解説文の中の、「民衆」を「患者」と入れ替えると、なにやら最近強調され、行き過ぎた患者中心主義のネガティブな面が浮かび上がってくるようです。いわく、「ポピュリズムは功罪を持ち合わせている概念であり、「患者」が素朴な正義感や健全な判断力を発揮するならば、健全な民主政治（これを「いい医療」と置き換える）を動かしていく可能性があるのです。一方、民衆（患者）の実感が偏見や因習にとらわれたものであれば、自由や民主主義（いい医療）を破壊する方向に向かっていく危険性もあります。この場合、ポピュリズムはデマゴーグ（「自分の医療・考え方こそが最善だと宣伝する煽動的医師」）に置き換えてみるとよく分かるのではないでしょうか（著者注：デマゴーグ<demagogue>とは、古代ギリシャの煽動的民衆指導者のこと。アテナイでは、煽動的指導者が続き衆愚政治へと堕落したことから、デマゴーグは煽動政治家のような悪い意味に使われるようになった）。日本にも、自分のやり方こそが最善だと喧伝する医師は、私の記憶にあるだけでも数名はいるようです。がんや難病の予防・治療では特に多く見られます。

たとえば、(ア)<u>混合診療</u>の悪い面が普及し、EBM*のない医療が行われる危険があります。インターネットの普及している現在では、特に世界中から怪しげな情報がたくさん入ってきます。しかし、怪しげだったと思われる中に、後でエビデンス（科学的な証拠）が証明されるものも出てくることがあるので、そこの判断が難しいのです。エビデンスは、「有効だ」と証明するよりも「有効でない」と証明する方がはるかに難しいのです。お金もかかります。したがって、様々な治療法（代替医療も含めて）の有効性は、それなりの方法で証明しなければなりません。その多くは、研究対象を論理的に絞って RCT（Randomized Controlled Trail／無作為化比較対照試験）を用いて、できれば多施設共同研究で行うべきで、その費用は公的に用意するべきでしょう。そうしないと、いつまでも怪しげな医療がはびこることになると思います。

医療は、患者の希望や願いを優先して考えるべきですが、希望だけを優先するものでもないのです。禁煙を守らない肺がん患者には、禁煙を一ヶ月続けなければ手術に応じないという病院の方針も一理があるのです。喫煙患者の場合、肺切除術の術後合併症が多いということから毅然とした医師の指導も必要なのです。また、単に新聞やマスコミで喧伝されている怪しげな民間療法を希望する患者に対しても、医師はきちんと指導すべきと思います。しかし、そうすると患者に嫌われます。やむを得ず「患者様」に迎合する医師も出てきます。そのほうが病院や診療所にとっては収入増になるし、嫌われないですむからです。自信のない医師ほど患者に迎合しがちです。しかし、それは（1）<u>医師の専門技術者としての誇りと品格</u>を捨てるものではないでしょうか。迎合と思いやりは、まったく違う性質のものです。

（久通　茂「医学・医療の品格」　都合上、一部改変がある。）

＊EBM：根拠に基づいた医療(evidence based medicine)の略

問１　下線部（ア）「混合診療」とはどのようなものか、200 字以内で述べよ。

問２　下線部（1）「医師の専門技術者としての誇りと品格」について、600 字以内であなたの考えを述べよ。